

必ず一度も読んだことのないものを選んでください。
ただし、準備するのが難しい場合は、「青空文庫」と検索してみてください。過去の名作を無料で読むことのできるサイトです。
通信料は発生するので、保護者の方に確認してから読みましょう。

能動的(自分から働

~ただ「読む」だけでは

★必ず学校ホームページにある、「読書」

STEP 1

一度も読んだことのない本を用意。

(無理に外出して用意する必要はありません。以前購入した自分の本でも借りているものでも、お家の方の本でも OK!)

本のタイトル 『 _____ 』

(著者 (本を書いた・編集した人の名前):

書かれた年月日:

出版社名:

)

STEP 2

まだ中身は見ないでください! 本の「目次・序文・まえがき・目次・おまけ」から、どんな内容の本かを確認し、その範囲で OK!

仮説 (こんな内容の本だと思われる):

奥付 (おくづけ)

と呼ばれる部分で知ることができます。
見方は次のページで確認しましょう。

STEP 3

筆者のプロフィールを読んでどんな人なのか考える。たいていカバーか巻末 (本の最後のページ) 付近にある「奥付」というところにあります。直接「奥付」とは書かれていませんが、その本のプロフィールがのったページだと思ってください。

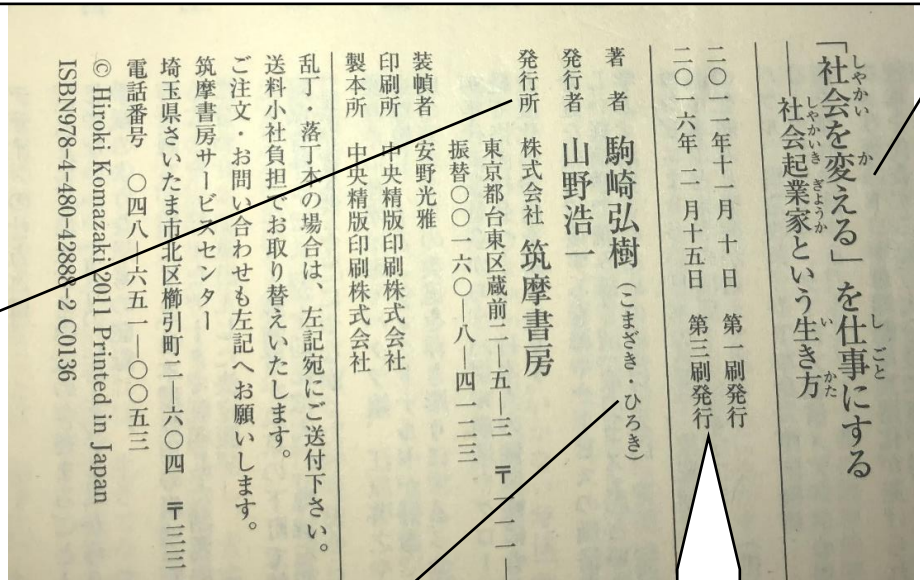
どんな分野を得意とする人か? 他の書籍のタイトルは? :

奥付(おくづけ)

【本のタイトル】はこの部分を見ます。

サブタイトルがある場合はそれも書きます。この例の場合は

『「社会を変える」を仕事にする——社会起業家という生き方』です。



【出版社名】はこの【発行所】の部分を見ます。

「株式会社」は書く必要がありません。間違えないようにしてください。

この例の場合は「筑摩書房」です。

【著者・编者・作者】はこの部分を見ます。

「発行者」ではありません。間違えないようにしてください。

【発行年】はこの部分を見ます。

一番新しいものを書いておきましょう。

詳しい見方や意味については、再開後の授業の中で行います。

この場合は著者のプロフィールは別ページかカバーにあります。

【著者・作者・編者】のプロフィールです。

宮沢 賢治 (みやざわ けんじ)
本名：宮澤 賢治。1896年(明治29年) - 1933年(昭和8年)。岩手県神貫郡里川口村(現・花巻市)出身。盛岡高等農林学校(現・岩手大学農学部)卒業。代表作に、『注文の多い料理店』(1924年)、『雨ニモマケズ』(1931年)、『風の又三郎』(1934年)などがある。

この部分からどのような人物で、どんな分野を得意としているかを読み取りましょう。

【本のタイトル】

銀河鉄道の夜

平成〇〇年〇〇月〇〇日 初版第一刷発行

著者 宮沢賢治

発行者 谷村勇輔

発行所 ブイソーソリューションズ

〒四六六・〇八四八名古屋市昭和区長吉町
電話 〇五二・七九九・七三九一
FAX 〇五二・七九九・七九八四

発売元 星雲社

〒一〇二・〇〇二二東京都文京区大塚三・
電話 〇三・三九四七・一〇二一
FAX 〇三・三九四七・一六一七

印刷所 印刷所は印刷部数により変わります

万一、落丁・乱丁のある場合は送料付社負担でお取替いたします。
ブイソーソリューションズにお送りください。

©Kadokawa Shoten Printed in Japan ISBN0000000000000

【発行年】

【作者・著者】

【出版社名】

「 <<読了後一行で記入しましょう>>目標は達成できたか。なぜそう思うか。」

STEP4

この本を読むにあたっての自分の目標を決める！

目標

(例)

「深海魚について詳しくなっている。」「惑星とは何なのかを知る」「主人公の性格を理解する」「犯人を推理し、当てる」「素晴らしい表現を探す」「文章の書き方の工夫を見つける」など

読み取るべきポイント：

物語（文学）→登場人物・場面設定／表現の良さ／登場人物の生き方や考え方
評論（説明的文章）→筆者の主張や考え方／問題とされていること
実用書（生活にかかわる本 趣味、スポーツ、料理など）・専門書
→その本の分野が伝えようとしている知識や考え方
ノンフィクション→その人の境遇や生き方・体験の中で気づいたこと、考えたこと 等

STEP5 記録しよう！（読みながら、読み終わった後）

※枠（わく）が足りない場合は裏面を自由に使ってください。

① 読み終えて分かったこと、印象に残ったこと。

読んでいる途中でメモ

をする



すべて読み終わってから

さらに書き足す

② 自分のこれまでの知識・考え方と比較して考えたこと。

すべて読み終わってから書く。自分が読む前後で変化した知識や考え方を探す。

③ 疑問に思ったこと

「その説は本当？」「この言葉、どんな景色のことだろうか？」「この人実在するの？伝説？」など気になったことを書こう。そこに書いてあることがすべてではない。あくまでひとつの考え・世界です。

浮かんでくるものはその度にメモする。

→読み進めたり調べたりして解決した、ものは赤ペンで疑問に対する答えを書き込む。